

認知カウンセリングによる活動への参加が 小学生の学習に対する認知に及ぼす効果

○ 柏原志保・小澤郁美・井深谷達史
(広島大学大学院教育学研究科)

認知カウンセリングとは、学習者の認知的な問題を扱う実践的研究活動である(市川, 1998)。認知カウンセリングでは、解答の正誤よりも、勉強方法(学習方略)や効果的な学習に関する信念(学習観)、動機づけなどの学習者の内的過程を重視する。そのため、認知カウンセリングの前後で、学習者の有する学習観や用いる学習方略の種類、自己効力感といった学習者の認知面における変化が期待される。

本研究では、認知カウンセリングによる学習相談活動へ参加した小学生について、学習に対する認知、特に、学習観、学習に対する自己効力感、学習方略の使用頻度がどのように変化するかを検討する。

方法

調査対象者および学習相談活動の概要 20XX年5—8月にA大学で開催した学習相談活動へ参加した小学4—6年生20名を調査対象とした。学習相談活動は、小学4—6年生を対象に、教員志望学生が、大学教員の指導を受けながら、週1回1時間計10回にわたり各々認知カウンセリングによる個別学習支援を行うものであった。

調査用紙 学習相談活動で相談した教科について、学習観、自己効力感、学習方略の使用頻度をそれぞれ4件法で測定した。(a) 学習観の測定には、市川他(2009)の環境重視志向を除く21項目および西村他(2017)の失敗観尺度のうち6項目を用いた。(b) 自己効力感の測定には、松沼(2004)を一部改変した8項目を用いた。(c) 学習方略の使用頻度の測定には、リハーサル方略・精緻化方略・教訓帰納方略(押尾, 2017)、説明方略(深谷他, 2016)、図表活用方略(植阪, 2014)、教科書活用方略(福田, 2017)を基に改変し、3項目ずつ、計18項目を選定した。

手続き 学習相談活動の開始前と終了後に同一の質問紙調査を実施した。開始前については郵送で依頼し初回来談時に回収した。終了後については最終来談時に配布し郵送での返送を求めた。

結果

2回の調査に完答した12名を分析対象とした。1を1点、4を4点とし、高得点ほど項目内容の強度が高くなるよう得点化した。各時点の得点とその変化量について、各尺度の平均得点および標準偏差をTable 1に示す。

学習相談活動前後の各尺度の平均得点について対応のある t 検定を行ったところ、失敗脅威性が低下し($t(12) = 3.19, p = .01, d = 1.37$)、自己効力感が向上し($t(12) = 3.17, p = .01, d = .85$)、4つの方略の使用頻度が増加した(精緻化方略 $t(12) = 5.44, p = .00, d = 1.27$; 説明方略 $t(12) = 3.28, p = .01, d = .88$; 図表活用方略 $t(12) = 3.82, p = .00, d = .88$; 教科書活用方略 $t(12) = 2.50, p = .03, d = 1.00$)。

Table 1. 学習観、自己効力感、学習方略の使用頻度の平均得点および標準偏差

	開始前		終了後		変化量(後-前)	
	M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)
学習観	方略活用志向	3.56 (0.39)	3.82 (0.40)	0.26	(0.51)	
	勉強量志向	2.77 (0.61)	2.69 (0.63)	-0.08	(0.77)	
	意味理解志向	3.69 (0.37)	3.63 (0.43)	-0.06	(0.29)	
	丸暗記志向	2.36 (0.79)	2.51 (0.86)	0.15	(0.89)	
	思考過程重視志向	3.51 (0.55)	3.59 (0.53)	0.08	(0.84)	
	結果重視志向	2.18 (1.01)	2.26 (0.93)	0.08	(0.84)	
失敗観	失敗活用志向	3.44 (0.34)	3.59 (0.41)	0.15	(0.54)	
	失敗活用可能性	3.31 (0.67)	3.62 (0.33)	0.31	(0.60)	
	失敗脅威性	2.98 (0.46)	2.10 (0.79)	-0.87	(0.99)	
自己効力感	2.29 (0.59)	2.81 (0.65)	0.52	(0.59)		
方略使用頻度	リハーサル方略	2.44 (0.66)	2.64 (0.67)	0.21	(0.71)	
	精緻化方略	2.25 (0.55)	3.08 (0.75)	0.83	(0.55)	
	説明方略	2.08 (0.61)	2.74 (0.89)	0.67	(0.73)	
	教訓帰納方略	2.56 (0.88)	2.97 (0.99)	0.41	(0.97)	
	図表活用方略	2.67 (0.84)	3.38 (0.81)	0.72	(0.68)	
	教科書活用方略	2.69 (0.85)	3.44 (0.63)	0.74	(1.07)	

考察

本研究から、認知カウンセリングの受講が小学生の学習観や自己効力感の改善および方略使用に繋がることが示唆された。これは、認知カウンセリングが、学習者の認知処理そのものの変容を促すのに効果的であることを示している。

主な引用文献

市川 伸一 (1998). 認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導 ブレーン出版